

説教余滴 2018年8月19日、「こんなに大勢が」

73回目の終戦記念日を過ぎました。あの日は、よく晴れた青空、白い雲が時折流れてゆく。

正午前、家人が縁側に小卓を出し白布を掛け、其処にラジオを据えました。焼け出され、ここを頼ってきた親戚の人たちが庭先に並びます。「こんなに大勢居たんだ。」

墨田で大空襲に遭遇、命からがら、この練馬の家に逃げてきて、間もなくここでも夜間空襲。戦争は終わっていません。500キロ弾が、東南の生垣のすぐ向こうに落とされ爆発。道路に大きな穴が開いていました。この時、西側にあった150坪ほどの畑・家庭菜園に走り、女子供は頭を中に向け、尻は外側に向けて輪を作り布団をかぶっていました。ヒューッと鋭い音が聞こえます。頭を出して外を見ました。焼夷弾が落ちてくる音でした。屋根の上には人が上って動いていました。畑の中の私たちの輪の外にも落ちてきます。男の人たちが一所懸命それを叩いています。土をかけていたのかもしれませんが。焼夷弾は、落ちてきて割れると中のゼリー状のものが燃え上がる。水をかけても消えない、飛び散ったところが燃える。厄介ものです。幸いにも、ここで被害はありませんでした。全員無事、家も焼けず、終戦の日を迎えることができました。大勢が力を合わせて、生き延びました。

縁側に置かれたラジオからの放送、ガーガーピーピー。

「重大放送、と予告されていたけど、何も聞き取れなかったなあ」

「もっと頑張れ、という激励のお言葉かな」

「いや、そうじゃなくて戦争が終わったというお言葉のようだよ」

みんなの声は、期待も含めて終戦に落ち着いて行きました。それに伴い、ほっとした空気が広がり、緊張が解けてゆきました。やがて、その後のことへの不安が頭をもたげます。

戦争に負けたら、俺たちはどうされるんだろうか。捕虜となり、外国へ連れて行かれ、奴隷にされる、と語る人がいました。旧約聖書を知る人でした。